

空衛俳壇

空衛俳壇（第八八二回） 7・12・20

「冬木」「火鉢」「棚」

福 神 規 子 選

冬木立日差し届かぬ八一歌碑

柴田 香

歩をゆるめ見上ぐ梢の冬木の芽

（奈良）

手火鉢をかたはらにして坊を守る

媼らの話の尽きぬ置火鉢

瀬戸火鉢手持無沙汰な骨董店

神棚に十日戎の縁起物

耐へがたきこととは何か終戦日

小林 荒礁

病む妻のむせかへるなり玉子酒

（東京）

気がつけば孤老ばかりの火鉢かな

老妻と向き合うてみる火鉢かな

老いてなほ生きたき余生賀状書く

父母も居し火鉢の景色幼き日

麻井ゆういち

陶製の火鉢に家族四人の手

（東京）

大枝を剪られし冬木空は蒼

小春日や書棚の昭和捨て切れず

神鶏の鶏冠の赤し初明り

大山 みち子

大楠にまつさらな幣お正月

（愛知）

巫女からの神酒賜る松七日

整然と並ぶ本棚年新た

大冬木日を総身に受け立てり

河内 環

ふとふれし冬木思はず日のぬくみ

（東京）

祖母いつも座つてをりし長火鉢

棚に本山ほど残し部屋冷ゆる

無一物なるも泰然大冬木

北村 武子

囲みみて言葉ほぐるる火鉢かな

（越谷）

神棚に真白き紙垂と鏡餅

境内にその威を張れり大冬木

大空の青きを冬木称へけり

木山 柚人

ここからが庄屋の屋敷大冬木

（守谷）

床の間や火鉢の灰の新しく

藤棚の枯蔓確と左巻き

お互ひの指先見つむ火鉢かな

二木 辰彦

親方の常席となる火鉢かな

（東京）

交番の棚板に乗る冬帽子

神棚に櫛を添へて年迎ふ

風雪に耐へ百年の大冬木

増村 ひさし

灰均し櫛目きれいな陶火鉢

（神奈川）

神棚に櫛を供へ年用意

あれこれと思ひ出せず年に暮

選者吟

福 神 規 子

ぼろ市の神棚さらに値引きして

日めくりの掛かる帳場や丸火鉢

貫祿の女将と対す桐火鉢

網棚に忘れられたる聖菓かな

ポケットに両手突つ込み冬木道

=空衛俳壇 応募方法=

～初心者歓迎

○応募方法

A4版用紙を横にして、兼題3題および
当季雑詠を含み10句以内を記載し、封筒にて郵送。

○2026年 4月兼題「チューリップ・日永・空」

5月兼題「葉桜・草笛・山」

○締切 当月20日までに必着。

○送付先 〒104-0041

東京都中央区新富2-2-7 空衛会館
（一社）日本空調衛生工事業協会 空衛俳壇係